

# 第5節 音 楽

## 第1 本資料の活用について

### 1 作成の基本的な考え方

- ・ 中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説（音楽編）及び埼玉県中学校教育課程編成要領を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう、音楽科における指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
- ・ 本時の評価に当たっては、題材の評価計画に沿って本時での評価の重点をしぼり、「どんな視点で」「どんな場面で」「どんな方法で」評価するのかを具体的に明らかにして評価し、評価の蓄積ができるよう留意する。各事例では、評価の各観点の見取り方をキーワードとして、重点的に説明した。

### 2 取り上げた内容

- 第1 本資料の活用について
- 第2 音楽科における学習指導と評価
  - 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
  - 2 観点別学習状況の評価の観点について
- 第3 題材の指導と評価の計画及び改善
  - 1 題材計画の作成と評価及び改善の考え方
  - 2 小・中学校等の接続を踏まえた系統的な学習指導の留意点とその実践例
- 第4 学習指導案（学習指導過程）の作成と評価、改善
  - 1 評価計画の作成と評価、改善の考え方 事例1～3
  - 2 学習指導案の作成と評価及び授業改善 事例4
- 第5 音楽科における学習評価の評定への総括例
  - 1 観点別学習状況の評価の例
  - 2 学期末における観点ごとの評価の総括例

#### 指導計画作成の留意事項

編成要領（編P 88）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連については各事例の指導案上に、吹き出しで示している。

- (1)「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点
- (2)「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3)「教科等横断的」な視点
- (4)「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5)「道德教育の充実」の視点

#### 事例1 「創作」

キーワード：「指導と評価の計画」

#### 事例2 「歌唱」

キーワード：「知識・技能」の評価

#### 事例3 「器楽」

キーワード：「思考・判断・表現」の評価

#### 事例4 「器楽・鑑賞」

キーワード：「主体的に学習に取り組む態度」の評価

### 3 本資料の活用に合わせて配慮すること

#### 3-1 音楽科の特質を踏まえること

学習指導要領第2章第2節「音楽科の内容」においては、各領域や分野の事項アに「思考力、判断力、表現力等」、事項イに「知識」、事項ウに「技能」に関する資質・能力を示している。事項ア、イ及びウを適切に関連付けて扱うとともに、〔共通事項〕は、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて十分な指導が行われるよう工夫すること。（本資料P109参照）

#### 3-2 指導計画に即した学習評価を行うこと

各学校においては、生徒の実態、学校、家庭、地域の特色を生かした年間指導計画を作成の上、題材ごとの具体的な目標や評価規準を設定し、より適切な指導方法と評価方法を工夫改善し、実践することが大切である。また、本資料の事例では、本時の学習活動に即した評価規準例を具体的に示している。各事例の評価の工夫について、他の題材に応用するなど創意工夫し、学習評価の充実、授業改善に取り組んでいくことが重要である。

### 4 学力・学習状況調査等の活用

音楽科においては、県学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果から、学習方略の関連項目について把握し、支援することができる。例えば、帳票40の結果から、プランニング方略が低い生徒には、見直しをもって学習に取り組めるように、振り返りの時間を大切に、できていない課題をどのようにして解決していくのかについて支援していく。また、協働的に学習を進める授業展開の中で、他の生徒の学ぶ姿から自己の学習について見直し、調整に向かう機会を与えていく。このように、「学習方略」の改善や「非認知能力」の向上を通じて、音楽科の側面から学力を向上させていく。

## 第2 音楽科における学習指導と評価

学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されている。

### 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

音楽科では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のように育成することを目指している。

教科の目標	(1)知識及び技能	(2)思考力, 判断力, 表現力等	(3)学びに向かう力, 人間性等
	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに, 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現を創意工夫することや, 音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	音楽活動の楽しさを体験することを通して, 音楽を愛好する心情を育むとともに, 音楽に対する感性を豊かにし, 音楽に親しんでいく態度を養い, 豊かな情操を培う。

### 2 観点別学習状況の評価の観点について

#### 2-1 改善等通知 別紙4 (1) 評価の観点及びその趣旨について < 中学校 音楽 >

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け, 歌唱, 器楽, 創作で表している。</li> </ul>	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように表すかについて思いや意図をもったり, 音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽, 音楽文化に親しむことができるよう, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

#### 2-2 学年別の評価の観点の趣旨について (□は学年により異なる表現の部分)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>【評価の観点の趣旨】第1学年</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け, 歌唱, 器楽, 創作で表している。</li> </ul>	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように表すかについて思いや意図をもったり, 音楽を□ <b>自分なりに</b> 評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽, 音楽文化に親しむことができるよう, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
<b>【評価の観点の趣旨】第2学年及び第3学年</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け, 歌唱, 器楽, 創作で表している。</li> </ul>	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, □ <b>曲にふさわしい音楽表現として</b> どのように表すかについて思いや意図をもったり, 音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽, 音楽文化に親しむことができるよう, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

#### 2-3 音楽科における「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価について (参P80~第3編参照)

学びに向かう力, 人間性等	主体的に学習に取り組む態度	粘り強い取組を行おうとする側面 自らの学習を調整しようとする側面	観点別評価を通じて見取る部分
	感性, 思いやりなど	音楽科における「感性, 情操, 心情」等	個人内評価を通じて見取る部分

評価の見取り方については, 本資料 P124, 事例4 の評価例を参照する。

## 2-4 学習活動に即した評価規準設定の作成手順（参：第2編P25～第3編P54～60参照）

「事例1 創作」では、次のような①～⑥の手順で評価規準を設定し、評価を行うようにする。

- ①（P107参照）前頁の学習指導要領及び、文部科学省通知に示された「音楽科の評価の観点及びその趣旨」と「学年別の評価の観点の趣旨」を確認し、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。
- ◆②学校・生徒等の実態を考慮して題材及び題材の目標を設定する。
- ◆③題材の評価規準を設定する。
- ④指導と評価の計画を作成する。（評価場面や評価方法等を計画する。）
- ⑤評価規準に達しない生徒への手立てを設定する。
- ⑥授業を行い、評価結果などから観点ごとの総括的評価を行う。

※表中の◆が付いている番号について、具体例を次に示す。

◆②題材の目標を設定する。題材の目標は、(1)～(3)の三つの柱で書く。

- (1) 音のつながり方及びリズム、旋律、テクスチュアの構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な課題や、条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。（知識及び技能）
- (2) リズム、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 音楽を形づくっているリズム、旋律、テクスチュアによって生み出される雰囲気などに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

◆③題材の評価規準を設定する。（参：第3編P44～参照）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 音のつながり方及びリズム、旋律、テクスチュアの構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて <u>理解している。</u> <b>技</b> 課題や条件に沿ったリズム、旋律、テクスチュアの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて <u>創作</u> で表している。	<b>思</b> <u>リズム、旋律、テクスチュア</u> （※1）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	<b>態</b> <u>リズム、旋律、テクスチュアによって生み出される雰囲気などに</u> （※2）関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作したり聴き合ったりする学習活動に取り組もうとしている。

※ 評価規準が複数ある場合の留意点（参：小学校版：第3編P56参照）

- ・歌唱と鑑賞など、複数の領域や分野が入る場合、各評価規準の最後に、（歌唱）、（鑑賞）等と記載する。
- ・中学校の場合は、この表記でほぼ満たせると思われる。それ以上の評価設定がある場合は、小学校を参考にして対応する。

評価の観点	題材の評価規準を作成する際のポイント
知識・技能	知識 ・「知識」については、観点の趣旨を「～について理解している。」と示しているため、そのまま評価規準として設定することができる。→文末は「～している。」とする。下線部（ <u>    </u> ）参照
	技能 ・「技能」については、具体的には、 <span style="background-color: #cccccc; padding: 2px;">          </span> の部分、その題材に応じた事項ウに置き換える。 ・下線部（ <u>    </u> ）は、「歌唱、器楽、創作」から選択して置き換える。→文末は「～を身に付け、歌唱（または器楽、創作）で表している。」とする。 ・鑑賞では技能の評価はしない。
思考・判断・表現	※1 「生徒の思考・判断のよりどころとなる <u>主な音楽を形づくっている要素</u> 」には、学習指導要領「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」の2（9）に示した「音楽を形づくっている要素」から、「音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など」の中から、そのねらいに応じて適切に選択したり関連付けたりして置き換える。
主体的に学習に取り組む態度	・「主体的に学習に取り組む態度」については、観点の趣旨を「～取り組もうとしている。」と示しているため、そのまま評価規準として設定することができる。 ※2 <u>文頭に、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、興味・関心をもたせたいことや、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容などに関する事柄を記載する。</u>

### 第3 指導計画作成と評価、改善

#### 1 題材計画の作成と評価及び改善の考え方

##### 1-1 題材の指導計画を作成するに当たっては、以下の点に留意する。

- ① 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見い出したりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。
- ② 表現（歌唱、器楽及び創作）の指導については、「思考力、判断力、表現力等」、「知識及び技能」の各事項を、鑑賞の指導については、「思考力、判断力、表現力等」及び「知識」の各事項を適切に関連させて指導すること。
- ③ 〔共通事項〕については、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、それぞれを切り離して指導するものではなく、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて十分な指導が行われるように工夫すること。また、〔共通事項〕の事項アについては、全ての題材で必ず位置付けること。

##### 1-2 題材の評価計画の作成に当たっては、以下の点に留意する。

- ① 「A表現」の目標において、「知識・技能」の観点の趣旨は、知識の習得に関することと技能の習得に関することとに分けて示されているため、それぞれの評価を行うようにすること。また、評価場面や評価方法も、それぞれに設定すること。なお、「B鑑賞」の題材では、技能の習得に関することの趣旨に対応する評価規準は設定しない。
- ② 「主体的に学習に取り組む態度」については、時間をかけて育成されるものであるという趣旨から、題材を通じて総合的に評価すること。
- ③ 〔共通事項〕の事項アは、全ての題材に位置付くものであり、「思考・判断・表現」の観点の趣旨の中に位置付けること。
- ④ 〔共通事項〕の事項イについては、「知識」の観点の趣旨に直接的には示していない。事項イの内容については、「音楽における働きと関わらせて理解すること」と示しており、主に「曲想と音楽の構造との関わり」について理解する過程や結果において理解されるものであること。

##### 1-3 題材の指導計画について

題材を通しての指導計画については、以下の内容等について振り返るようにする。

- ① 学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「内容のまとまり」（歌唱、器楽、創作、鑑賞）と「評価の観点」とを関連付けた指導計画になっていたか。
- ② 主体的に学習に取り組めるように、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面が設定されていたか。
- ③ 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面が設定されていたか。
- ④ 生徒が思考、判断、表現する場面と教師が指導する場面が、適切に設定されていたか。また、それらが、学びの深まりを作り出すことにつながっていたか。
- ⑤ 評価計画は、1単位時間ではなく、題材ごとに検討するようにして、改善を図れていたか。

## 2 小・中学校等の接続を踏まえた系統的な学習指導の留意点とその実践例

実践するに当たっては、各学校の実態に応じて、各領域の調和のとれた指導計画の作成と活用を図り、音楽の美しさや喜びを味わうことができるよう学習指導を展開することが大切である。特に小・中学校等との連携においては、「特別の教科 道徳」や「国際理解教育」、「総合的な学習の時間」等との関連も視野に入れ、生徒の多様な学習活動が展開できるよう、9か年を見通した系統的な指導の計画に努めるようにする。以下、小・中学校等の接続を踏まえた学習指導の留意点と生徒の発達の段階や言語能力を踏まえた学習指導例や活動例と評価に関する事項を示す。

## 2-1 小・中学校等の接続を踏まえた系統的な学習指導の留意点

編P97 第5  
指導内容の系統性

小・中学校それぞれの学習指導要領を確認し、各校種、学年ごとの目標や指導事項にどのような発展性が見られるのかを確認することは大切である。教科書の掲載曲や歌唱曲等、校種をこえて同じ教材が使われることがあるが、指導事項の取扱いの違いや、編曲や調性の違いなど、調べておくことも必要である。

小学校の学習の土台を基に、中学校での学習をよりスムーズに、そして発展的内容に到達できるようにするためにも、中学校入学段階でのレディネスチェックをすることも大切である。また、授業を行う際に、生徒に既習事項を意図的に思い出させ、次に生かすことを考える時間を設けるなどの工夫が効果的である。市町村の実態に応じて、小・中学校が連携して情報を共有し合う機会を設け、その都度、指導計画等の修正を図りながら学習指導要領に沿った教育実践を目指すことが望ましい。

## 2-2 音楽科の系統性を踏まえた言語活動の充実

「思考力、判断力、表現力等」や「知識」の資質・能力を育成するために、言葉で説明したり批評したりする活動において、ワークシートの形式等、評価物の方法がある程度、中学校区で統一しておくことよい。発達段階に応じて、〔共通事項〕イに示された音符、休符、記号や用語について、単にその名称や意味を知るだけでなく、表現及び鑑賞の様々な学習活動の中で、音楽における働きと関わらせて、その意味や効果を理解させたい。

言葉で説明する際には、対象となる音楽が自分にとってどのような価値があるのかといった評価を、根拠をもって述べるのが重要である。次に示す①～④までを明らかにできるように指導することが大切である。(学P57～58 参照)

①「音楽を形づくっている要素や音楽の構造」、②「特質や雰囲気及び曲想」、③「①と②との関わり」、④「気に入ったところ、他者に紹介したいところなど自分にとってどのような価値があるのかといった評価」

以下、同じ中学校区での小学校6年生と中学校3年生の「鑑賞曲を紹介文にした時の記述例」を示す。

《小学校6年生の紹介文》	《中学校3年生の紹介文》
<p>『ハンガリー舞曲第5番』はブラームスが作曲した作品です。私がこの曲の中で一番好きなのは、③の部分で、スタッカート部分は、「追いかけてこ」しているように軽快で、アクセント部分は、「追いつきそうで焦っている」ように迫力がある音です。シンバルが入ることで、この迫力がさらに加わっています。</p> <p>場面によって曲想が変化するので、何曲も聴いた気持ちになります。あなたもぜひ「次は何がくるのかな？」と想像しながら聴いてみてください。おもわず身体が動いてしまうくらい楽しく聴けますよ。</p>	<p>『ブルタバ』を作曲したスメタナはチェコの作曲家です。当時、母国語さえ話せない圧政下で、この祖国への思いに満ちた作品を～(中略)～私が、この曲の中で一番好きなのは「ブルタバの2つの源流」です。一本のフルートがPで始まり、森の奥で静かに水源が生まれる様子が想像できます。その後、水源が加わり(楽器の数や音量が増えて表現しています)音量もだんだん大きくなり、川になる様子がわかります。水源や水の流れを、細かい音符や楽器で表しているのがとても神秘的な曲の始まりのようです。ぜひ、川の流れを想像しながら聴いてください。</p>

## 2-3 音楽科と特別活動等を関連させた小・中学校での情報共有の好事例

- ・ 中学生が小学校に母校訪問を兼ねて訪問し、鼓笛支援活動を実施し、かつて自らが担当していた楽器を児童に教えることで「伝える難しさ」や「習得したときの喜び」を体験させた事例。
- ・ 中学校の合唱コンクールに小学生を招いたり、反対に小学校の音楽朝会に中学生が行ったりして相互の音楽交流会を開催した事例。



P106 指導計画作成の留意事項(3/4)

## 2-4 より実践的な教員間の交流

- ・ 年間の指導計画に基づき中学校の教員が派遣指導を行い、児童を対象に基礎的な発声法や変声期の心理的な配慮に留意した歌唱指導の実践を行う。
- ・ 箏の貸し出し、和楽器の奏法、取扱いや指導方法の共有を行う。
- ・ 音楽用語等の掲示物や小・中学校共通で使用できる教材等(楽器の扱い方等を写真を使って説明する掲示物)の共有を行う。



「旅立ちの日に」を通して、歌唱指導をはじめ、曲に込められたエピソードを伝えている。(中学校教員が小学校で行う授業場面)



間違った扱い方



正しい扱い方

「楽器の扱い方の掲示物の例」

以上、小・中学校の教員が互いに足を運んだり、情報を交換し合ったりすることで、様々な改善を図るようにする。

## 第4 学習指導案（学習指導過程）の作成と評価、改善

### 1 指導計画の作成と評価、改善の考え方（事例1～3）

＜事例1＞音の重なり方を感じながら、旋律に合う伴奏を創作する事例（学習者用PCの活用）

第2学年（学習指導要領との関わり：A表現(3)創作 ア、イ(ア)(イ)、ウ

〔生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕リズム、旋律、テクスチャ キーワード「指導と評価の計画」

1 題材名 音の重なり方を感じながら旋律に合う伴奏をつくらう（2時間扱い）

#### 2 題材の目標

- 音のつながり方及びリズム、旋律、テクスチャの構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な課題や、条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。
- 音楽を形づくっているリズム、旋律、テクスチャによって生み出される雰囲気などに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。

#### 3 教材

(1) 使用する楽曲について「ピアノソナタ K.545」（モーツァルト作曲）

音の重なり方の特徴について本題材で学習した伴奏のリズムを知覚・感受させやすく、創作にあたっては旋律と伴奏のかけ合いについて考え、自分の作品を新たな視点で見直すことができる楽曲である。

(2) ICT環境（生徒用 1人1台学習者用PC）：音楽編集アプリ（本題材ではGarage Bandを使用）

本題材では学習者用PCを用いて、リズム、旋律、テクスチャを知覚・感受させ、C→F→G→Cのコード進行による4小節の旋律（※）に伴奏を重ねて音楽をつくる学習を行う。

※既習事項として、既にC→F→G→Cのコード進行による旋律はすでに創作している。

#### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 音のつながり方及びリズム、旋律、テクスチャの構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p><b>技</b> 課題や条件に沿ったリズム、旋律、テクスチャの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて創作で表している。</p>	<p><b>思</b> リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p><b>態</b> リズム、旋律、テクスチャによって生み出される雰囲気などに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作したり聴き合ったりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

#### 5 指導と評価の計画（全2時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知	思	態
		<>内は評価方法		
1	<p>◆旋律と伴奏の音の重なり方の特徴と音楽の構造との関わりについて捉え、表したいイメージと関わらせて理解する。</p> <p>○旋律と伴奏の音の重なり方を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律のみの音源と、旋律に伴奏が加わったものを比較・聴取し、感じ取ったことを意見交換する。</li> <li>・旋律と伴奏が重なり合うことによって、音楽のよさがどのように深まるか考える。</li> </ul> <p>○2種類の伴奏によるそれぞれの音楽の特徴を捉え、リズムや音の重なり方の特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2種類の伴奏（※）によるC→F→G→Cのコード進行を聴き、それぞれの旋律と伴奏の音の重なり方の特徴について感じ取ったことをワークシートに書く。</li> </ul> <p>※2種類の伴奏について ①全音符（アルコ奏法）、②アルペジオ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4小節の旋律の順次進行や跳躍進行などの音のつながり方から表したいイメージを確認し、旋律に合う伴奏を考え、録音する。</li> </ul>	<p>知 記述</p>		

2	<p>◆課題や条件に沿ったリズム、旋律、音の重なり方を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、知覚・感受しながら、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <p>○課題や条件に沿った音楽をつくるために必要な技能を身に付け、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ピアノソナタ K. 545」を聴き、旋律と伴奏の音の重なり方の特徴を感じ取る。</li> <li>・意見交換をしながら、音の重なり方や旋律の音の動き、リズムの特徴について感じ取ったことを共有する。</li> <li>・感じ取ったことから、旋律や伴奏をつくる時にどう生かすことができるか意見交換し共有する。</li> <li>・表したいイメージと関わらせながら、新たにどのように伴奏をつくるか考え、つくった伴奏を録音し、ワークシートに記譜する。</li> <li>・生徒の作品を抽出し、スクリーンに投影しながら、全体で作品のよさや表したいイメージを伝え合い、意見交換をして共有し、自分の作品を再度見直す。</li> <li>・本題材の学習を振り返り、旋律と伴奏が重なり合うことによって音楽のよさがどう深まるかについて考え、意見交流し、共有する。ワークシートに自分の考えをまとめて記入する。</li> </ul>	
	<p>P106 指導計画 作成の留意事項(2)</p>	

1-1 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断するポイントと「努力を要する」状況 (C) 評価になりそうな生徒への働きかけの例

観 点	評価 規準	<p>〈評価方法〉「おおむね満足できる」状況 (B) と判断するポイント</p> <p>「努力を要する」状況 (C) 評価になりそうな生徒への働きかけの例</p>
	知 識 ・ 技 能	<p><b>知</b> <b>評価の場面Ⅰ</b>〈記述〉</p> <p>知覚・感受したリズム、旋律、テクスチャの特徴について理解し、旋律の伴奏の音の重なり方と表したいイメージと関わらせながら、おおむね妥当な内容を記述しているか。</p> <p>リズム、旋律、テクスチャの違いによって生み出される雰囲気の違いなどについて対話することで、音楽の雰囲気がリズム、旋律、テクスチャによってどのように変化するかについて気付けるよう促す。</p> <p><b>技</b> <b>評価の場面Ⅱ</b>〈記述〉</p> <p>課題や条件に沿ったリズム、旋律、テクスチャを生かし、表したいイメージと関わらせながら伴奏を考え、学習した内容を踏まえて楽譜に記譜されている。また、タブレットの作品と整合性がとれているか。</p> <p><b>技</b> <b>評価の場面Ⅱ</b>〈作品〉</p> <p>課題や条件に沿ったリズム、旋律、テクスチャを生かし、表したいイメージと関わらせながら伴奏を考え、学習した内容を踏まえてタブレットに録音している。また、記譜した楽譜と整合性がとれているか。</p> <p>課題や条件を一つひとつ確認し、表したいイメージや音の重なり方の特徴を確認したり、考えた伴奏のリズムを口で歌ったり、対話することで、正しく記譜、録音できるよう促す。</p>
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	<b>思</b>	<p><b>評価の場面Ⅲ</b>〈観察〉</p> <p>試行錯誤しながら音楽をつくる場面において、知覚・感受したことを踏まえて発言したり、意見交換したりしながら意見を共有しようとしているか。</p> <p><b>評価の場面Ⅲ</b>〈記述〉</p> <p>知覚・感受したことを基に、どのように音楽をつくるかについて表したいイメージと関わらせながら、自分なりの思いや意図を書いているか。</p> <p>音楽を比較聴取することによって、知覚・感受したことを基にどのような感じがするか考えさせ、表したいイメージについて対話することで、思いや意図をもてるよう促す。</p>
	<b>態</b>	<p><b>評価の場面Ⅳ</b>〈観察〉</p> <p>リズム、旋律、テクスチャによって生み出される雰囲気などに関心をもち、知覚・感受したことや他者の気付きなどを基に、どのように音楽をつくるかについて考えている様子が、本題材の学習を通じて見て取れたか。</p>
主 体 的 に 取		

り 組 む 態 度	<b>評価の場面Ⅳ</b> <記述> 学習の全体を振り返って、自分が学んだことについて、授業での学習内容を踏まえて書いているか。
	試行錯誤しながら音楽をつくる過程において、伴奏のリズムや音の重なり方の特徴について提示したりしながらどう感じ取ったかについて対話することで、知覚・感受したことをもとに音楽をつくる学習に興味をもてるようにする。

## 1-2 ワークシート記入例<評価の場面Ⅰ>の評価場面

※知覚・感受したことと表したいイメージと関わらせて理解しているか。

1 伴奏のリズムや旋律と伴奏の音の重なり方から、音楽の特徴や、どんな感じがするか書こう。

伴奏のリズム	音楽の特徴	どんな感じがするか
①全音符	和音が長く響く。	ゆったりした感じがある。音が集まるから迫力もある感じがする。
②アルペジオ	和音を分散させている。	弾んでいるような感じ。楽しく生き生きとした感じがする。

2 旋律に伴奏を重ねてみます。以下の2つの伴奏を聴き、どちらが旋律に合った伴奏に感じますか？

①全音符 (アルコ奏法)    ②アルペジオ (ピッチカート奏法)

♪【順次進行の旋律を提示する。】



旋律に合った 伴奏    ①	なぜこの旋律に選んだ伴奏が合うと感じましたか。 なめらかな感じがするので、落ち着いたアルコ奏法の方が旋律をひき立たせると思ったから。
-------------------	---

3 以前創作した旋律をもう一度丁寧に書いてみよう。



伴奏のリズムや音の重なり方について理解したことを踏まえ、どのように伴奏の音を重ねるか考えよう。

1・2小節目は跳躍進行で楽しく生き生きとした感じを出したいので、アルペジオを使って音楽を弾ませたい。  
最後の順次進行は特にひき立たせたいので、アルコ奏法を使いながら旋律を引き立たせたい。

### 1-2-1 <評価の場面Ⅱ・評価の場面Ⅲ>の評価場面

「旋律と伴奏を重ねながら、つくった音楽を楽譜に書こう。」

<条件>①旋律は以前創作した旋律をそのまま使用する。

②「旋律の音のつながり方」、「伴奏のリズム」、「旋律と伴奏の音の重なり方」の音楽の特徴や、「どのような感じがするか」を基に、どんな音楽にしたいかイメージをもってつくる。

旋律

伴奏

どのようなイメージの音楽にしたのかな？この題材で学習した言葉を使って、自分がつくった音楽について説明しよう。

1・2小節目は跳躍進行で楽しく生き生きとした感じを出したかったので、伴奏のリズムにアルペジオを用い、音楽を弾ませました。より前へ前へと進めていく勢いを表しました。3小節目は音の重なり方を厚くし、音楽を強調し、あえて休符を入れることで、その後の4小節目に期待を持たせました。4小節目は順次進行のなめらかなイメージを出すためにアルコ奏法で曲を終えると思いきや、最後に高い和音を1つ入れることで、曲の盛り上がりを最大限引き出すことができるようにしました。



＜事例2＞ 曲想と音楽の構造や歌詞の関わりについて理解する歌唱の事例

第3学年（学習指導要領のとの関わり：A表現（1）歌唱 ア、イ（7）、ウ（7）

〔生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕 リズム、旋律、強弱 キーワード「知識・技能」の評価

1 題材 歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう（3時間扱い）

2 題材の目標

- (1) 「花」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「花」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 「花」のリズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「花」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 「花」の歌詞の内容や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。

3 教材 「花」 武島羽衣作詞 滝廉太郎作曲

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 「花」の曲想と音楽の構造や歌詞の情景との関わりを理解している。 <b>技</b> 創意工夫を生かした表現で「花」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	<b>思</b> 「花」のリズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「花」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	<b>態</b> 「花」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全3時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1	<b>◆「花」の曲想と音楽の構造や歌詞が表す情景との関わりを理解する。</b> ○「花」の曲想や歌詞の内容に関心をもち。 ・「花」の上声部と下声部の旋律を音読したり歌ったりしながら、この曲のよさについてワークシートⅠに記入し、学級全体で意見交換をする。 ○「花」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。 ・「花」のもつリズムや旋律の特徴について考えワークシートⅡ、Ⅲに記入する。 （例）2/4拍子、付点音符のリズム、細かい休符がある、1番と2番の旋律が違う ・「花」の特徴や歌詞がどんな雰囲気を生み出しているのかワークシートⅢに記入し、学級全体で意見交換をする。			
2	<b>◆「花」の歌唱表現を工夫する。また、そのために必要な技能を身に付ける。</b> ○「花」の雰囲気を生み出している音楽の特徴や歌詞を生かして、歌唱表現を工夫する。（個人で考えた後に2人組で意見交換をする） ・「花」にふさわしい歌唱表現をするには、どのような技能を身に付けたらよいかワークシートⅢに書き加える。 ○「花」の歌唱表現の工夫をより効果的に行うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。（ワークシートⅣ、Ⅴ）	知 〈記述・観察〉		
3	<b>◆音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に「花」の演奏に取り組む。</b> ○思いや意図をもって「花」を二人組で二重唱する。 ・演奏する前にどのように歌うのか、思いや意図と工夫したところ（ワークシートⅢ）を説明する。 ○思いや意図を技能につなげる表現ができたか、他の人の演奏で参考になったことを振り返る。（ワークシートⅥ）	技 〈記述・演奏・観察〉	思 〈記述・観察〉	態 〈記述・観察〉

P106 指導計画作成の留意事項(2)

評価の場面Ⅰ

評価の場面Ⅱ

### 1-3 題材の学習指導と評価、授業改善の考え方

本題材では、生徒がリズムや旋律、強弱を手掛かりにその曲のもつ音楽の特徴に気付き、それらの働きがどのような曲想を生み出しているのか考え、その考えを基にその曲にふさわしい表現を創意工夫する学習を行う。また、その表現の創意工夫と歌唱表現に必要な技能である「発声、言葉の発音、身体の使い方」との関係について考え、技能を身に付ける学習も行う。しかし、学習内容が技能の習得に終始することなく、身に付けた技能が表現の創意工夫の基礎として効果を発揮するように、つながりのある学習展開を計画する。

「知識・技能」の評価においては、知識の習得に関する評価規準〔知〕を第1、2校時に位置付け、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについての理解の状況を評価すること、技能の習得に関する評価規準〔技〕を第2校時と第3校時に位置付け、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能の習得の状況を評価することとした。

「思考・判断・表現」の評価規準〔思〕を第3校時に位置付け、音楽を形づくっている要素の知覚・感受、また知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている状況や、その考えを基に表現を創意工夫する過程や結果の状況を評価することにした。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準〔態〕を全ての時間に位置付け、第1校時から3校時までの、本題材への学習活動への取組の状況について総括的に評価することにした。

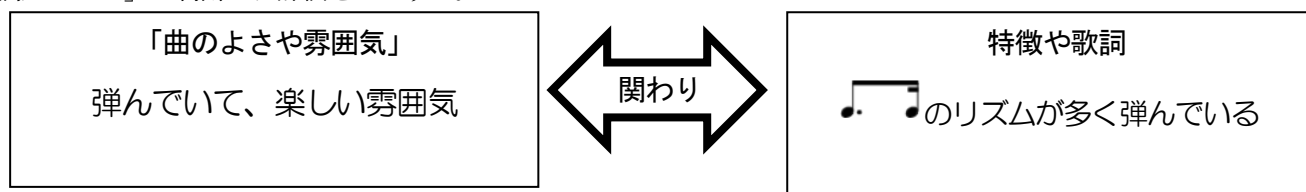
本題材における授業改善のポイントとして、「自らの考えを話し合い、他者との協働を通じて自分の学習課題に取り組む場面」や「生徒が自らの理解や習得の状況を振り返ることができる場面」を意図的に設定した。

### 1-4 観点別学習状況の評価の進め方（知識・技能の評価）

#### 1-4-1 評価の場面Ⅰにおける〈知識・技能〉（「知識（歌唱）」）の評価例

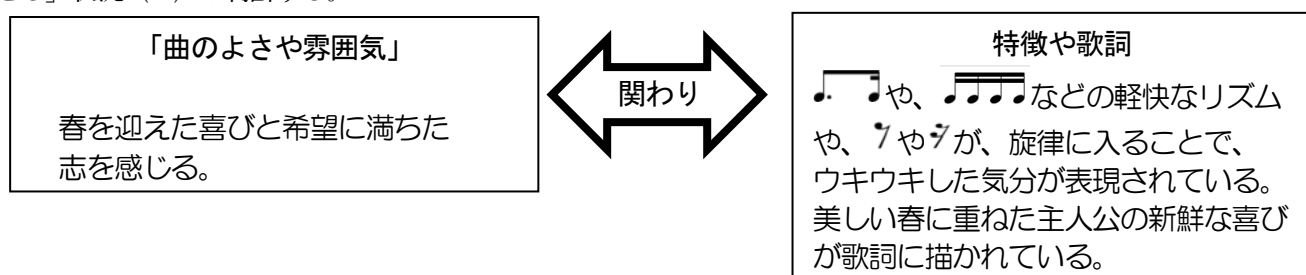
##### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

〈ワークシートⅡ・観察〉「花」のもつリズムや旋律に関する音楽の特徴にいくつか気付いている場合は「おおむね満足できる」と判断し、評価をBとする。



##### ○「十分満足できる」状況（A）の例

気付いた曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関係について自分なりの考えを書いている場合、「十分満足できる」状況（A）と判断する。



##### ○「努力を要する」状況（C）評価になりそうな生徒への働きかけの例

リズムと旋律、強弱を手掛かりに音楽の特徴について考えさせる。特に旋律の音符に注目させ、視覚的に付点音符のリズム」や「音階的な音のつながり」があることに気付かせる。

#### 1-4-2 評価の場面Ⅱにおける〈知識・技能〉（「技能」）の評価例

##### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と「十分満足できる」状況（A）と判断する例、また「努力を要する」状況（C）評価になりそうな生徒への働きかけの例

〈記述〉ワークシートⅢ、Ⅳでの記入した内容について、既習事項を生かしながら創意工夫を生かした表現で

「花」を歌うために必要な技能を考え、自分の言葉で書いてあることでBと判断する。B規準を満たした上で、質の高い内容のことが楽譜に記述されていた場合、Aと判断する。

○「おおむね満足できる」状況（B）のワークシートの楽譜への記入例

下記の生徒は、既習事項をもとに、鼻濁音、ブレスをどこで吸うかなど、試行錯誤しながら考えた記述が見られる。ワークシートVの部分で、考えたブレスがきちんと4小節目で行えていれば、ペアからもマーカーで色が塗られている。創意工夫した内容や、どのように歌いたいのかが楽譜から読み取れればBとする。

(楽譜「花」武島羽衣作詞、滝廉太郎作曲)

○（C）評価になりそうな生徒への働きかけの例

このように、楽譜に何も書き込まず、また歌唱表現にも困っている様子が見られる場合は、既習事項を思い出させるように以下のような言葉がけを行い、歌唱に取り組む生徒の様子を見ながら個別に指導を行い表現の技能に生かせる点の気付きを促す。

- 「はる」「ふなびと」の「HやFの子音」等で子音の強さと長さを工夫し、言葉に合ったニュアンスを気付かせる。
- 言葉の抑揚については、歌詞を読み、いろいろ試させ、美しい日本語になるよう鼻濁音などに気付かせる。
- 姿勢や表情など、歌詞に合うような表現を教師がやってみせて気付かせる。
- ハミングやナ行の「n」の発音することを手掛かりに鼻腔が響くことを体験させる。
- 「みずやあけぼの」や「おぼろづき」など表現の付けやすい箇所、強弱を教師が大きめに歌ってみせて、生徒が表現したいものを選ばせる。

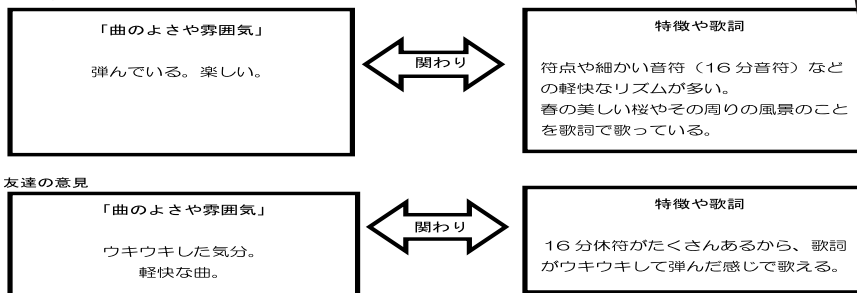
音楽の授業 3年生 「花」 \_\_\_\_\_ 組 \_\_\_\_\_ 番号 氏名 \_\_\_\_\_

「歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう」

I この「曲のよさや雰囲気」について書いてみよう

明るく、ウキウキした気分。春の喜びが感じられる。弾んだ気持ち。  
暗い部分がない曲。(長調)

II Iで気づいた「曲のよさや雰囲気」は「どんな特徴や歌詞」と関わりがあるだろうか  
個人の意見



IV 「雰囲気」にふさわしい表現を歌うために、どのような技能を身に付けたら、よりよい表現  
近づくか既習事項を参考に、楽譜（III）に書き入れてみよう。  
(既習事項：姿勢や呼吸、音色、響き、発音など)

V 楽譜（III）に書いた表現が伝わるか、2人組でアドヴァイスしよう。  
※創意工夫した表現が伝わったら、マーカーで印をつけ合おう。

VI 発表を振り返り、思いや意図を技能につなげる表現ができたか、書いてみましょう  
(友達演奏を参考になったことも書いてみましょう)

明るく響きのある声で、春のウキウキした気分を出せました。(テンポは速めに設定)  
歌詞も子音をはっきり出して、丁寧に歌えました。  
友達演奏も、速めのテンポの人が多く、強弱やフレーズを大切に歌っているのが伝わりました。

※ワークシートはA3見開きである。  
このワークシートの右側に『III「花」のもつ「リズムや旋律の特徴」を書いてみよう』として、次ページの楽譜があり、上記の設問事項を書き込んでいく。  
実際に歌い試す時間を確保できるように、書き込みのスペースや分量も多くならないように考慮し、生徒の思考・判断した流れがわかるように、色を変えながら楽譜に書き込んだりすると有効である。

○「十分満足できる」状況 (A) のワークシートⅢの楽譜への記入例

下記の生徒は、B規準を満たした上で、既習事項をもとに、ワークシートⅢの楽譜へ言葉の発音（鼻濁音、子音）、ブレス、フレーズ、強弱、伴奏について記入をしている。歌詞との関連も含め、どの部分をどのような気持ちで歌うのが明確に記入されている。

「ワークシートⅢ」(楽譜「花」武島羽衣作詞、滝廉太郎作曲)

武島羽衣 作詞 滝廉太郎 作曲

明るくウキウキで

7のあとに、切らないで、  
(はきり)で。

1番

はるの うららーの すみだがわ のぼりく だーりーの ふなびーとーが

大切

鼻濁音で下ゆい

ピツと一緒に  
テンションUP

f フォルテ

かいの しずくも はなとちる な がめを なーにーに たと うべーき

(いとりうた)

はきり

2番

みずや あけーぼーの つーゆーあびて おれにものーいうーさくらぎを

朝の静けさを想像しながら

はきり

腹筋を使って  
はずむように

ソプラノ

みずや ゆうぐれて をのべて うれしまねく あおやぎを

響き全開キラキラな目でうたう

3番

にしき おりーなーすちようーていにくるればのーぼーるおぼろーづーき

3番の出だし、元気にあわせて pとの対比が  
伝わりやすい。

遠い目で  
美しい空を  
想像に

でもブレスは下ゆい

mf

rit.

f

アツクおゆる感

a tempo

げにいーつこくもせんきんのな(が)めをなーにーに たーとうーべーき

本当にすごい!! いろいろが伝わりやすい (たっぷり) 音下がるけどおぼろの  
まじ!!

音  
楽

＜事例3＞鑑賞したことを生かしながら表現を工夫して、他者と合わせて演奏する器楽アンサンブルの事例  
 第3学年（学習指導要領との関わり：A表現（2）器楽 ア、イ（イ）、ウ（イ）（B鑑賞 ア（ア）（イ）、イ（ア）（イ））  
 （生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素）音色、旋律、強弱 キーワード「思考・判断・表現」の評価

- 1 題材名 オーケストラの演奏から学んで、表現の仕方を工夫しよう
- 2 題材の目標（3～5時間目のA表現（2）器楽の部分のみ） ※ギター伴奏部分は、全員が既に弾けるという前提。  
 (1) 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な、各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。  
 (2) ブルタバの主題の音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。  
 (3) 楽器の音色や響きと奏法の関わり、交響詩の音楽的な特質に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、器楽アンサンブルに親しむ。
- 3 教材 「ブルタバ（モルダウ）」（連作交響詩「我が祖国」から）  
 ※前半2時間を鑑賞教材として扱い、後半3時間「ブルタバの主題」を器楽で扱う。
- 4 題材の評価規準（A表現（2）器楽の評価規準のみ掲載）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。  <b>技</b> 創意工夫を生かした表現で「ブルタバの主題」を演奏するために必要な、各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け器楽で表現している。	<b>思</b> ブルタバの主題の音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	<b>態</b> 楽器の音色や響きと奏法の関わり、交響詩の音楽的な特質に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（5時間扱いのうち「器楽」として取り扱う3～5時／5時間の部分）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	関・関	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1 2	鑑賞教材として1, 2時間目に「ブルタバ」を扱う。（2時間目後半に合唱版も鑑賞し、主題の旋律を口ずさめるようにしておく）（略）	略	略	略
3	◆ブルタバの主題についてオーケストラの演奏から、音色、旋律の流れ、強弱を聴き取り、器楽表現をどのようにするかについて思いや意図をもつ①  ○オーケストラの演奏から、音色、旋律の流れ、強弱の特徴について聴き取り、器楽表現をどのように工夫していくかについて思いや意図をもつ。 ・伴奏を担当している楽器と、旋律を演奏している楽器を聴取し、曲の雰囲気を感ずる。 ・旋律の流れは何を表現しているのか、楽譜にオーケストラの演奏から聴取した強弱を個人で書く。 ・強弱をどこにつけたのかを、グループ内で発表しお互いに発表しお互いの考えを知る。 ○8分の6拍子のリズムの取り方、指使いなどの奏法を確認しながら繰り返し部分までを演奏する。 ・A部分の繰り返しまでを6拍のカウントを入れながらゆっくりとしたテンポで合わせて演奏する。 ○本時の振り返りをする。			学習者用PCに模範演奏等を入れておき、各自が適宜確認しながら課題に取り組む。
4	◆ブルタバの主題についてオーケストラの演奏から、音色、旋律の流れ、強弱を聴き取り、器楽表現をどのようにするかについて思いや意図をもつ②  ○オーケストラの演奏から、フレーズやブレス、拍の取り方などに注目して聴き取り、器楽表現をどのように工夫していくかについて思いや意図をもつ。 ・楽譜にオーケストラの演奏からわかるフレーズ（ブレスの位置）、抑揚について個人で書く。 ○お互いの音を聴きながらアンサンブルをし、試行錯誤しながら表現の工夫を考えていく。 ・楽譜とワークシート、演奏動画（学習者用PCで適宜録画して確認）などを使って自分たちの演奏を振り返り、改善したと思う点を共有して課題に取り組む。 ○本時の振り返りをする。	<b>知</b> 記述・観察	<b>思</b> 記述（観察・演奏）	評価の場面Ⅰ  評価の場面Ⅱ
5	◆3つのパートの響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。  ○グループ内で、演奏についての意見をまとめ、演奏の仕上げをする。 ・グループで統一した強弱やブレス、工夫したい表現などを確認してから課題に取り組む。 ・楽譜とワークシート、演奏動画（学習者用PCで適宜録画して確認）などを使って自分たちの演奏を振り返り、改善したと思う点を共有して課題に取り組む。 ・録画を教師の指定するフォルダに提出し、いくつかのグループが全体の前で発表する。 ○本時の振り返りをする。	<b>技</b> 動画（観察・演奏）		<b>態</b> （観察・記述）

## 1-5 観点別学習状況の評価の進め方〈思考・判断・表現〉の評価例

ここでは、「5 指導と評価の計画」の中に示した評価の場面における「思考・判断・表現」の評価例を紹介する。

### 1-5-1 評価の場面 I における評価例

#### ○ 評価方法及び「おおむね満足できる」状況 (B) と判断するポイント

3、4時間目の楽譜やワークシートの記述の評価と合わせて、観察の状況で補完していく。下記例の生徒は、オーケストラの模範演奏を聴取し、自分の楽譜に強弱、フレーズ、抑揚など演奏の工夫を書くことができています。

〈観察〉

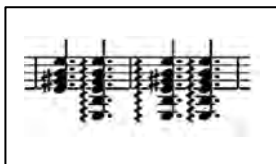
ワークシートや楽譜に表現について記入する際の話合い活動や生徒の発言の状況、他者の発言内容への反応などを観察し、ワークシートと楽譜への記述での判断を補完する。

#### ○ 「十分満足できる」状況 (A) の例

下記例の生徒は、オーケストラの模範演奏を聴取し、自分の楽譜に1回目と2回目で異なる強弱を書き入れ、小さな変化も聴き取れている。フレーズについても聴取したことを丁寧に表記している。弦楽器が奏でるアーティキュレーションや抑揚を自分なりの言葉で書き入れている。

また、楽器がアクセントを付けながら揃って弾いている部分については、「2つのパートを合わせる」など演奏の工夫を書くことができています。ワークシートの記述においても、他のパートとの関連も考えながらどのように演奏するとよいか自分なりに考え、記述ができています。

観察においては、自分で聴き取ったことをグループに説明する時も、メロディーを歌って「こういう勢いのある感じのクレシェンド」と具体的に伝えようとしている様子が見られた。



○左記のギター伴奏の変化の部分についてのワークシートへの記述の例

オーケストラの音が最高潮になっている場所。ギターの伴奏もこれまでの分散和音から2拍のストロークになっている。みんなで2拍を感じて、情熱的な伴奏を聴いて旋律も盛り上げたらオーケストラの演奏に近づけそう。リコーダーが一番盛り上がる f fのところだけど、音は割らないように深い息で吹くとよいと思う。

#### ○ 「努力を要する」状況 (C) 評価になりそうな生徒への働きかけの例

聴取の場面では、オーケストラが楽譜のどの部分を演奏しているかを示す。学習者用PCで自分のペースに合わせて何度も聴けるようにし、ペアで強弱や抑揚を手で示したり、曲想の変化が分かりやすい部分から書き入れたりするように促す。また、他者の意見や板書の内容を取り入れながら、少しでも自分の楽譜に自分の考えが書けるように促す。音楽記号だけでなく、自分で作った記号や言葉でメモをしてもよいと促す。

## 1-5-2 評価の場面Ⅱにおける評価例

### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

〈ワークシート・楽譜〉

グループで演奏を学習者用PCで録画し、自分たちの演奏を振り返りながら進める。グループ全体で考えた表現の工夫に演奏が近づいているか、拍の流れにのって演奏ができているかなど、活動中の観察と合わせ、事後に演奏を視聴して評価をしていく。

<ワークシート記入例>

私たちの演奏は、楽譜に示した強弱はうまく表現できたし、伝わったと思う。特に、盛り上がる部分については、全員で気持ちを合わせてfを表現できた。少し乱暴に聴こえるかと思ったけど、録音したものを聴いたらちょうどよかった。旋律の流れは、プレスは守れたけど、オーケストラのように抑揚がなくてちょっと平坦だった。

〈観察〉

下記例はグループとしての意見をまとめた楽譜（教育芸術社の教科書より一部抜粋）である。



左の楽譜のチームは、「旋律の抑揚や音色」、「フレーズの最高音にむかってクレシェンド、その後緩やかにデクレシェンド」や「特に大きくffで演奏する」等グループで話し合った演奏イメージを共有し、チームの演奏で表したい工夫を記入した。



録画した演奏を聴き、創意工夫した表現に対し、「音色、旋律、強弱」が合わせたときにどう聴こえるかについてお互いに意見を述べ合いながら、どう改善すれば創意工夫が伝わるのかなど、表現ができていないところにマーカーを引くなどして、さらによい演奏になるように試行錯誤している。

### ○「十分満足できる」状況（A）の例

〈ワークシート・楽譜・観察〉

下記例の生徒は、記述と発言から、各パートをよく聴き取り全体のバランスを考えながら表現に生かそうとする工夫が見られる。



<ワークシート記入例>

私たちの演奏は、楽譜に示した強弱をグループ全体でうまく表現しようと努力しました。実際、リコーダーはあまり強弱がつかない楽器なので、1人でfを頑張ろうとするのではなくみんなでpをうまく活用しながら、小さくする場面と比較してfと感じるように工夫しました。グループの人の意見を取り入れて、人数バランスも考えて、2番カッコからはアルトリコーダーのソロから始まり、だんだん人を増やすようにして強弱をつけてみました。最高潮になる部分のギター伴奏の人もストロークの部分がカッコよく、みんなでプレスを合わせたり、2拍を意識したりして、縦の線もしっかりそろっていて良かったです。

旋律の流れは、オーケストラの抑揚のようには、まだ伝わってこないけど、フレーズやプレスをしっかりと守って深く息を入れる部分は録音でも伝わっていました。最後の方はアクセントをつけたところもちゃんと表現できていたし、音の形が「ターンターン」で揃っていたから何度も練習した成果が表れてうれしかったです。

### ○「努力を要する」状況（C）評価になりそうな生徒への働きかけの例

聴き取ることや感じ取ることの内容が不十分で、自分たちの演奏の創意工夫について気付くことが難しい様子の生徒には、拍の流れを感じ取ることや、強弱などの聴き取るポイントを個別に説明し、少しずつでもよいので、本人の気付きを促す。

また、比較的平易な演奏部分に絞って、運指の復習と教師のギター伴奏に合わせてリコーダーパートの階名唱をする。歌いながら抑揚をつけて気付きを促す。

## 2 学習指導案の作成と評価及び授業改善

### 2-1 音楽科学習指導案例

＜事例4＞箏曲「六段の調」を用いた、「A表現」と「B鑑賞」の関連を図る学習の事例

第1学年（学習指導要領との関わり：A表現(2)器楽 ア、イ(イ)、ウ(ア) B鑑賞ア(ア)、イ(ア)

〔生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕 音色、速度

### 第1学年〇組 音楽科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時  
 在籍数 〇〇名  
 授業者 教 諭 〇 〇 〇 〇

1 題材名 箏曲の特徴を感じ取り、その魅力を味わおう

2 題材について

本題材の学習に関わる生徒の実態を記入する。

(1) 生徒の実態 (略)

(2) 題材について

本題材は、我が国の伝統的な音楽である「箏曲」を取り上げ、表現と鑑賞の学習を関連させて取り組んでいく。箏の音色だけでなく平調子に含まれる都節音階は、小学校歌唱共通教材を通しすでに親しんでいることなど、小学校より学習が進められている箏曲を取り上げ、小・中学校の題材の系統性をもたせたい。

指導に当たっては、鑑賞で箏曲「六段の調」のよさをあじわって聴く中で、日本の伝統音楽の特徴である「序破急」についても理解を深めさせたい。さらに、箏の演奏と鑑賞の活動を関連させることにより、実体験を伴って音色や旋律の特徴や奏法が生み出す特質や雰囲気味わわせたい。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では学習指導要領のA表現(2)器楽ア、イ(イ)、ウ(ア)、B鑑賞ア(ア)、イ(ア)を指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) 箏の音色や響きと奏法との関わり及び曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な、奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 箏の音色、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「六段の調べ」の器楽表現を創意工夫するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 箏の音色、速度と箏の音楽に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組むとともに、日本の伝統音楽に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

4 教材について

(1)器楽と鑑賞：箏曲「六段の調」(伝)八橋検校 (2)器楽「虫づくし」(作曲者不詳)

(3)鑑賞：「春の海」(宮城道雄)、「さくらさくら」(日本古謡)、「乱輪舌」(箏曲(伝)八橋検校)、「千鳥の曲」(二世吉沢検校)、カヤグムの音楽

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	器楽ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること 器楽イ(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解すること 器楽ウ(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けること 鑑賞ア(ア) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと 鑑賞イ(イ) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること
〔共通事項〕	ア 音色・速度・旋律
	イ 拍・間・序破急・音階
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箏に触れながら、基本的な奏法を習得する。</li> <li>・箏を演奏しながら曲種に応じた発声や言葉の特徴を生かして歌う。</li> <li>・「六段の調」を鑑賞し、様々な奏法や速度の変化を感じ取り、箏曲の豊かな表現を味わう。</li> </ul>

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〔知〕 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞)</p> <p>〔知〕 箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。(器楽)</p> <p>〔技〕 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な、奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。(器楽)</p>	<p>〔思〕 箏の音色や速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>〔思〕 箏の音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p>	<p>〔態〕 箏の音楽や箏の音色、速度などに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(器楽・鑑賞)</p>



7 指導と評価の計画（4時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点	図・図	思	態		
			〈 〉内は評価方法				
1	<p>◆様々な箏の音楽や箏の音色に関心をもつとともに、その特徴から生まれる音楽の多様性について関心をもつ。</p> <p>○箏の音楽や音色に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さくらさくら」「春の海」を聴き、箏の音色の特徴や音色から喚起される雰囲気などについて、気付いたことや感じたことを述べ合う。</li> <li>・箏曲「六段の調」の初段を聴き、音色や響きの変化についてワークシートに記入し、グループや全体で意見交流する。</li> </ul> <p>○箏曲「六段の調」や楽器について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏の伝来や楽曲、平調子と都節音階について知る。</li> <li>・「引き色」「後押し」による余韻の変化と雰囲気の違いを感じ取り、ワークシートに記入し、グループや全体で意見交流する。</li> <li>・カヤグムの演奏と箏の演奏を比較しながら聴き、気付いたことを発表し合う。</li> <li>・箏の音色や余韻の変化に注目し初段を聴く。</li> </ul>	<p>○各曲とも、必要な箇所の抜粋を聴き比べる。</p> <p>小学校での既習曲と比較しながら感じ取れるようにする。</p> <p>○喚起されるイメージや雰囲気については、季節・風景・時間帯・天気などを聴く視点として事前に提示し、感じ取れるようにする。</p> <p>○平調子は教科書を参照しながら、実際に音を出して音階に慣れるようにする。</p> <p>○都節音階は、小学校歌唱共通教材と関連させながら理解できるようにする。</p> <p>○平調子や「引き色」「後押し」の聴取は、映像資料を活用したり、教員や生徒が実際に箏で演奏をしたりして効果的に習得できるようにする。</p> <p>○それぞれの楽器の音色や奏法の違いによる、音楽の多様性に気付けるようにする。</p>					
2 本 時	8 本時の学習指導について（2/4時）を参照		知 鑑賞	思 鑑賞			
3	<p>◆箏の音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりについて理解する。</p> <p>○箏の音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりを知り、実際に体験しながら箏への関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「乱輪舌」「千鳥の曲」を聴き、楽器の音色を感じ取り、全体で意見交流する。</li> <li>・教師の説明により箏の構造を知る。</li> <li>・箏を弾く時の姿勢、柱の立て方、構え方、基本的な奏法を知り、実際に音を出すなどして、箏の音色に関心をもつ。</li> </ul> <p>○箏の音色や平調子の音階の特徴を感じ取りながら、左手や右手の奏法について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人組で「虫づくし」を互いに助言し合いながら、交替で歌ったり演奏したりする。</li> <li>・「後押し」「引き色」「掻き爪」「割り爪」「トレモロ」「流し爪」などの奏法を知る。</li> <li>・各奏法を試しながら、奏法による感じ方の違いを感じ取りワークシートに記入する。</li> <li>・3人組で「六段の調」より三段の冒頭を演奏し合い、音色や響きと奏法の関わりや感じたことをワークシートに記入し、意見交流をする。</li> </ul>	<p>○様々な奏法による音色の違いを感じ取れるようにする。</p> <p>○箏の響きを十分に実感できるように、自由に音を出させ関心を高められるようにする。</p> <p>○奏法については、映像資料や実際に音を出すなどして、試行錯誤しながら体得できるようにする。</p> <p>演奏者、演奏者の脇、対面に配置し、唱歌や歌詞を歌ったり、糸番号を補助したり助言できるようにする。</p> <p>・演奏に取り組むグループは箏の面数により、ペア、グループ等学習形態を工夫し、奏法の確実な定着を図るようにする。</p> <p>・演奏順を待つ場合は、口唱歌と紙箏や箏を疑似体験できるアプリなどを用いて、個人で理解を深めさせても効果的である。</p>			知 器楽 鑑賞 観察・ワークシート	評価の場面 I	
4	<p>◆箏の基礎的な奏法を生かして演奏し、思いや意図をもって表現を創意工夫する。</p> <p>○箏曲「六段の調」初段冒頭を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭の4小節に必要な奏法について、グループで確認する。</li> <li>・どのように演奏をしたいかについての思いや意図をワークシートに記入してから「六段の調」初段冒頭を演奏する。</li> <li>・「六段の調べ」を互いに助言し合いながら、交替で歌ったり演奏したりする。</li> </ul> <p>○もう一度「六段の調べ」を聴く。</p> <p>○題材の振り返りをする。</p>	<p>○姿勢や構え方、基本的な奏法など前時の復習と「後押し」「引き色」「掻き爪」「割り爪」の4種類の奏法について、グループで音を出しながら確認できるようにする。</p> <p>○音色や響きと奏法との関わりについて、鑑賞と演奏による感じ方の違いに気付かせ、箏や箏曲のよさ、面白さについて考えられるようにする。</p>			技 器楽 演奏・観察	思 観察・ワークシート	態 観察・ワークシート

8 本時の学習指導について (2 / 4時)

(1) 目標

- ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。〈知識〉
- ・箏の音色や速度などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴いている。〈思考・判断・表現〉

(2) 展開

○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価基準と評価方法
<p>曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、箏の音色や速度などの諸要素を感じ取りながら、箏曲「六段の調」のよさや美しさを味わって聴こう。</p>	
<p>○箏曲「六段の調」を聴き、箏の音色や速度、序破急など曲の特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全曲を聴き、音色や速度などの聴き取ったことと感じ取ったことをワークシートに書く。</li> <li>・初段を聴き、音色、速度などについて気付いたことや感じ取ったことをグループで意見交流する。</li> <li>・初段と各段を速さの変化について比較しながら聴き、感じ取ったことをワークシートに記入し、全体で意見交流する。</li> </ul>	<p>○基本的な聴き取る視点を明確にし、感じ取ったこととの関連について個人で考えられるようにする。また、グループ学習や意見交流後に、感じ取り方や意見の変容があつてよいことを伝える。</p> <p>○速度、拍、拍子、間などについては、拍を打つなどして確かめるなどして、より感じ取りやすくする。</p>
<p>個人で取り組む場面とグループで取り組む場面を短時間で繰り返すなど対話的な取組により、ほかの人の意見や観点を取り入れながら学習に取り組めるようにすることで学習を調整できるようにする。</p>	<p>比較しながら聴取する際は、楽譜を参照したり、各段の冒頭部分のみなど必要な部分を抜粋したりして聴かせてもよい。</p> <p>○速度だけでなく、音楽を形づくっている要素が醸し出す、特質や雰囲気に気付けるようにする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「序破急」について、教科書を用いながら、音楽を聴いて気付いたことをワークシートに記入する。</li> <li>・初段と三段を音色や奏法に気を付けながら聴き、気付いたことや感じ取ったことをワークシートに記入する。</li> <li>・初段と五段、六段を聴き比べ、気付いたことをワークシートに記入し、グループで意見交流する。</li> </ul>	<p>○速度だけだけでなく、音楽を形づくっている要素が醸し出す、特質や雰囲気に気付けるようにする。</p> <p>ワークシートには知覚したことと感受したことを関連させて記入させる。速い、遅いなどのみの聴き取りにならないようにする。</p> <p>○序破急について、教科書などを用いて理解させる。</p> <p>○三段は奏法による音高や余韻の変化にも注目できるようにする。</p> <p>☆知 (鑑賞) (観察・ワークシート) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p>
<p>○箏曲「六段の調」のよさや美しさを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習したことや意見交流でわかったことをもとに全曲を聴き、「六段の調」のよさや面白さをワークシートにまとめ全体で意見交流する。</li> </ul>	<p>○前時に全曲聴き知覚・感受したことと、学習後に自分自身が知覚・感受したことの変容に気付かせる。</p> <p>☆思 (鑑賞) (観察・ワークシート) 箏の音色や速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴いている。</p>

9 本時の板書計画

曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、箏の音色や速度などの諸要素を感じ取りながら、箏曲「六段の調」のよさや美しさを味わって聴こう。

初段の楽譜 (教科書の楽譜を抜粋)

音色	速度
・切ない音 ・繊細だが、太い音	・ゆったりしている ・ゆっくり歩くような感じ

速度の変化・序破急について

三段の楽譜 (教科書の楽譜を抜粋)

音色	奏法	その他
・力強い音 ・張りのある音	・同じ音の連続から急激に低くなる ⇒トレモロ、流し爪	・初段より速いが旋律の雰囲気は似ている

五段	六段
・さらに速度が速くなっている ・躍動的 ・和音が多い	・全体として弾んだ雰囲気 ・踊りたくなる感じ ・後半の速度はだんだん遅くなった。

本時のまとめ

日本の伝統音楽に親しみ、そのよさを味わおう

～箏曲「六段の調」～

- 1 箏曲「六段の調」を聴いて、音色、速度などを手掛かりに感じ取ったことや気付いたことをまとめてみよう

始めはゆっくり静かな感じだと思っていたけれど、だんだん速くなってきて、ノリがよくなってびっくりした。でも、最後はまたゆっくりになって消えていく感じだった。箏の弦を弾くピンという音が印象的で、お正月の感じがした。

- 2 初段を聴いて、感じ取ったことや気が付いたことをまとめてみよう

○自分で感じ取ったこと、気が付いたこと

- ・はじめは、止まってしまうような雰囲気が始まった。でもだんだんゆっくり歩く感じになった。
- ・お正月や春に聴く音楽だと思った。
- ・拍を取るのが大変。



○グループで意見交流してわかったこと

- ・Aさんの意見で初段を聴いてみると、確かに寂しい音色から始まったけど、力強さも感じた。
- ・Bさんの意見で、お正月っぽいのは、優雅な気分になれる明るく美しい音色だからだと感じた。
- ・みんな拍を取るのは苦労したみたいで、「フワッ」としている雰囲気だった。

- 3 初段と他の段を聴き比べて、感じ取ったことや気が付いたことを要素と関連させてまとめてみよう

段	三段	五段	六段
感じ取ったこと 気付いたこと等 (音色・奏法・余韻など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始めのジャカジャカした音が印象的だった。</li> <li>・一気に下行する所が風が吹いたようだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初段と違い明るい力強い音色で明るい感じがした。</li> <li>・音の重なりがたくさんあったから重厚な感じだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップを踏んでいるような旋律だった。</li> <li>・最後の方で、ゆっくり消えていくようで寂しい。</li> </ul>
速度の変化	初段より段を追うごとに速度は速くなっていくけど、六段の後半でゆっくりになって消えていく感じがした。		

- 4 箏曲「六段の調」のよさや面白さをまとめ、他の人に紹介できるようにしよう

「六段の調」のよさは、何といても日本的な箏の音色だと思う。最初は印象的に1つの音が響くけど、段が進むにつれて、同じ楽器の音色？と思うほど様々な音色を感じ、様々な奏法で音の違いが楽しめる。また、速度の変化にも注目してみると「序破急」の効果でだんだんドキドキしたり踊りたくなったり心が揺れ動くところが面白いのでぜひ聴いてほしい。

## 2-2 観点別学習状況の評価の進め方

ここでは、「7 指導と評価の計画」の中に示した「主体的に学習に取り組む態度」の評価例を紹介する。なお、本事例では、第3時に「主体的に学習に取り組む態度」の「**評価の場面Ⅰ**」として、また、第1時から第4時までの、本題材の学習活動への取組の状況について総括的に評価することとしている。具体的には、第1時において箏の音色や余韻の変化など、奏法への関心をもつことができるようにした上で、第2時で「六段の調」の速さの変化を知覚・感受し、第3時で箏を実際に演奏体験することで、箏の構造や奏法を学ぶ。グループ活動などの場面における生徒の取組の状況を観察し、ワークシート【毎時間の振り返り】の生徒の記述を補完的に扱いながら、第4時での器楽表現を創意工夫して演奏する様子から、総括的に評価する。

## 2-3 「評価の場面Ⅰ」 第3時における〈主体的に学習に取り組む態度〉の評価例

### ○評価規準

箏の音楽や箏の音色、速度などに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

### 2-3-1 評価方法及び「おおむね満足している」状況（B）と判断するポイント

#### <観察>

第1時において、箏の音色や奏法による余韻の変化、さまざまな箏への関心をもつことができるようにした上で、主に、グループや全体で意見交流し、グループで説明し合う状況について観察する。

第2時で、初段と各段の速さの変化の比較、第3時で三段の音色や奏法（引き色や後押し、裏連など）をどのように感じ取っているか、自分なりの考えをもって聴くことができているか。第4時で、初段冒頭を、器楽表現について考えながら聴いているか。なお、教師はグループ活動の場面において、

必要な指導を行いながら、個々の生徒の状況を観察する。観察の記録については〈教師用チェックリスト〉を利用する。評価と指導の進め方については、以下の通りである。

全ての生徒について、粘り強く取り組んでいるかどうかを観察し、〈教師用チェックリスト〉の「粘り強く取り組んでいる様子」の欄に記録する。

↓

第1時～第3時で「おおむね満足できる」状況以上と判断した生徒については、第4時までには、自らの学習を調整しようとしているかを観察し、〈教師用チェックリスト〉の「自己調整しようとしている様子」の欄に記録する。

「努力を要する」状況と判断した生徒については、適切な指導や助言を行い、第4時で改めて粘り強く取り組んでいるかどうかを観察し、記録するとともに、自らの学習を調整しようとしているかについても、観察し、記録する。

「自己調整しようとしている様子」については、全ての生徒の状況を観察のみで把握することは難しいため、ワークシート【毎時間の振り返り】の記入状況と合わせて評価する。

### 〈教師用チェックリスト例〉

校時	取組状況									終了 時点	校時	取組状況									終了 時点
	粘り強く取り組んでいる様子				自己調整しようとしている様子				○			粘り強く取り組んでいる様子				自己調整しようとしている様子				○	
	1	2	3	4	1	2	3	4			1	2	3	4	1	2	3	4			
生徒1	○							○		○							△		○		
														箏を演奏することに関心が高まった様子。(4校時)							
生徒2	○							△		○					○				○		
	奏法を身に付けることに消極的。(3校時)				鑑賞の後、奏法を身に付けることに積極性が感じられた。(4校時)					余韻の変化が感じられず、やや投げやりな発言。(1校時)											
生徒3																	△	○	○		
					他者の助言を受け入れようとしなない。(3校時)									*振り返りワークシートにより、積極的に他者への助言を行い、グループの演奏をよりよいものにしようとしていることがわかる。							

### 【〈教師用チェックリスト〉の記入の仕方と留意点】

#### 粘り強く取り組んでいる様子

十分満足できる……「○」を記入する。(例：学習内容に高い関心を持ち、積極的に他者と関わり合いながら、粘り強く取り組んでいる)

おおむね満足できる……空欄のままにする。(例：学習内容に関心を持ち、他者と関わりながら、粘り強く取り組んでいる)

努力を要する……取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

#### 自己調整しようとしている様子

十分満足できる……「○」を記入する。(例：自己の演奏だけでなく他者の演奏についても助言したり、グループの演奏をよりよいものにしようとしたりして、グループ全体の学習の調整をしようとしている)

おおむね満足できる……空欄のままにする。(例：他者からの助言に耳を傾けたり、グループでの話し合いを参考に自己の演奏を振り返ったりして、自らの学習を調整しようとしている)

努力を要する……取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

観察だけでは判断が不十分……「△」を記入する。※なお、〈教師用チェックリスト〉に記した「努力を要する」具体的な状況について、改善が見られた場合は、「終了時点」の欄に「○」を記入し、「おおむね満足できる」状況と判断する。

### ○〈ワークシート【毎時間の振り返り】の記入状況〉

授業の最後に、ワークシート【毎時間の振り返り】に4段階（4，3，2，1）で自己評価をしており、その理由として、成果と課題などを書いているか。

なお、ワークシート【毎時間の振り返り】の記入については、自己評価を行った結果がそのまま学習評価に結び付くものではなく、生徒が自らの状況を適正に捉えることができているかということや、その理由として自らの成果と課題などに気付いており、さらには次の学習への見通しをもつことができているかということが重要である。このことについて、あらかじめ生徒と共通理解を図っておくようにする。

### ○生徒16のワークシート【毎時間の振り返り】

【毎時間の振り返り】次の点について、毎時間の自分の学習を振り返ってみましょう。

〔評価の目安〕

できた…4    どちらかといえばできた…3    どちらかといえばできなかった…2    できなかった…1

	自己評価の視点	自己評価	その評価にした理由
第1時	箏の演奏を聴いて、音色や響きの変化に関心を持ち、余韻の変化を感じることができましたか。	2	箏の音色や響きに関心をもつことはできたけれど、余韻の変化まではわからなかったから。
第2時	「六段の調」の初段と他の段を比べて、速さの変化等に気付くことができましたか。	4	ゆっくり始まった初段から三段、五段と進むにつれて速くなり、六段の最後は緩やかに終わったのを感じられたから。
第3時	箏の音色や奏法に関心を持ち、音色や音階の特徴を感じ取り、さまざまな演奏に必要な奏法の技術を身に付けて、三段の冒頭を演奏する活動に進んで取り組むことができましたか。	3	「後押し」や「引き色」はまあまあできたが、トレモロが難しかったので、少しあきらめかけた。でも、友達にアドバイスをしてもらい、だんだんできるようになったから。
第4時	初段の冒頭をどのように演奏したらよいかを考えて、自ら積極的に演奏し、改めて鑑賞し「箏」の音色や響きと奏法との関りを客観的に感じることはできましたか。	4	前回よりも積極的に箏を演奏することができ、音色や響きに魅力を感じることができ、関心が高まったから。

生徒16は、グループ活動の観察において、〈教師用チェックリスト〉の「取組状況」の欄には「おおむね満足できる」（空欄）と「観察だけでは判断が不十分」（△）と記録されているが、4時間を通して、ワークシート【毎時間の振り返り】に自己評価をしており、その理由として、成果（よくできた点）と課題（できなかった点）などを書いている。以上のことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

### 2-3-2 「十分満足できる」状況（A）の例

生徒18は、グループ活動の観察において、〈教師用チェックリスト〉の「取組状況」の欄には「十分満足できる」（○）と「観察だけでは判断が不十分」（△）と記録されているが、4時間を通して、ワークシート【毎時間の振り返り】に自己評価をしており、その理由として、成果（よくできた点）と課題（できなかった点）だけでなく、改善点や次への見通しなどを適切に書いている。以上のことから「十分満足できる」状況（A）と判断した。

### ○生徒18のワークシート【毎時間の振り返り】

【毎時間の振り返り】次の点について、毎時間の自分の学習を振り返ってみましょう。

〔評価の目安〕 できた…4    どちらかといえばできた…3    どちらかといえばできなかった…2    できなかった…1

	学習のポイントを押さえられたか	自己評価	その評価にした理由
第1時	箏の演奏を聴いて、音色や響きの変化に関心を持ち、余韻の変化を感じることができましたか。	4	小学校の頃に聴いた時から箏の音色や響きに関心があり、余韻の変化に興味を持てた。ピアノでは出せない変化だと思ふ。どうやって弾くのか、やってみたい気持ちが高まったから。
第2時	「六段の調」の初段と他の段を比べて、速さの変化等に気付くことができましたか。	4	初段はゆっくり始まった。余韻を味わうかのような“間”が印象的だった。それからだんだん速くなり、六段の最後は緩やかに終わったのを感じられたから。

第3時	箏の音色や奏法に関心をもち、音色や音階の特徴を感じ取り、さまざまな演奏に必要な奏法の技術を身に付けて、三段の冒頭を演奏する活動に進んで取り組むことができましたか。	3	「後押し」「引き色」「掻き爪」「割り爪」など、やってみて難しかった。でも、同じグループのK君に「後押し」のやり方を教えてもらい、上手くできたので興味がふくらんだ。それでつまずいているS君に助言したら喜ばれ、みんなができるようになり楽しかったから。
第4時	初段の冒頭をどのように演奏したらよいかを考えて、自ら積極的に演奏し、改めて鑑賞し「箏」の音色や響きと奏法との関りを客観的に感じることができましたか。	4	ますます箏の音色や響きが好きになり、関心が高まったから。そして、もっとたくさんの箏曲を聴いたり、続きを演奏したりしてみたいと思ったから。

### 2-3-3 「努力を要する」状況（C）評価になりそうな生徒への働きかけの例

生徒との対話や観察を通してつまずきの原因を確認したり、できていることは積極的に認めるとともに、難しさを感じていることについては生徒が無理なく取り組めるように助言する。

ICTを活用し、自身のタイミングで聴き直しや確認が容易にできるようにするとともに、動画を撮影し、自身の演奏と模範演奏を比較し客観的に考えさせるなどして、気付いたことについて対話しながら、工夫できそうなことを確認し、学習の進め方などの見通しがもてるようにする。

適正な自己評価ができていない生徒に対しては、本時のねらいに沿って、振り返る内容を確認させ、活動の様子について質問を投げかけたり、ワークシートの記述などを見直すように助言したりして、ねらいに沿った振り返りができるようにする。なお、学習の調整に向けた取組のプロセスには生徒一人一人の特性があることから、特定の型に偏った学習の進め方で一律に指導することのないよう配慮することが必要である。

## 第5 音楽科における学習評価の評定への総括例

### 1 観点別学習状況の評価の例～定期テスト問題作成例～

授業で取扱った「音楽を形づくっている要素」を基に、出題をしている例である。「fの意味は？」というような出題ではなく、どのような資質・能力が身に付いたかを評価できる問題を作成している。

#### 【問題例①】楽譜の活用 A表現(歌唱 ア及びイ (ア) を評価する問題 (第2学年)

右図の楽譜を演奏するときに工夫することについて下記語群AとBに示された言葉をそれぞれ一つ以上の使い、あなたの考えを書きなさい。

A音楽を形づくっている要素	音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成
B用語や記号	フレーズ、和音、クレシェンド、レガート、タイ、fなどの強弱記号

出典「青葉の歌」小森香子作詞 熊谷賢一作曲



授業で扱っていない同じような特徴をもつ曲での出題も考えられる。

#### 【解答例】

楽曲のこの部分から、男女のパートで旋律の掛け合いが行われている。旋律がパートごとに途切れないように互いに呼応しながら次第に一つの旋律へ重なるよさを表現することが大切である。そこで、旋律が呼応しながら一つにまとまるように、互いの旋律をよく聴きあうこと、また、最後のタイに向かって息のスピードを上げながらやクレシェンドすることで音楽に躍動感が生まれるように表現したい。

#### 【問題例②】放送問題の活用

##### ①「曲や演奏に対する評価とその根拠」(B鑑賞ア (ア) を評価する問題) (第1学年)

例：「授業で越天楽を聴き、『間』など日本の音楽の特徴について学んだ」→「2つの演奏のうち、どちらが本物の雅楽か答える問題」  
(1つは、本物の雅楽の演奏、もう1つは、シンセサイザーなどで作られた音色もかなり近いが、間などはない演奏)

解答：1つ目の音楽が本物の雅楽の演奏だと思う。その根拠は、~~~~~。

##### ②「音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり」(B鑑賞イ (イ) を評価する問題) 例 (第3学年)

「授業で能、狂言、歌舞伎、文楽について学んだ」→「放送で流れるいくつかの音楽の特徴をとらえ伝統音楽の種類を答える問題。」

解答：1番に流れた音楽：「○○」(選んだ根拠：○○○○○○○○○○○○)

## 2 学期末における観点ごとの評価の総括例

### 2-1 学期末の観点別学習状況の評価 (P7総則編、参P58、59参照を参照すること。)

学期末には、題材ごとの観点別の評価を総括し、その学期における学習状況の評価を行う。

### 2-2 学年末の観点別学習状況の評価及び評定への総括

学年末には、各学期の観点別の評価を総括し、観点別学習状況の評価を行う。評定は「ABCの数」や「ABCを点数化した数値」等で行うこともできる。その際、学習指導要領の示す教科の目標に準拠した評価となっているか、観点別学習状況の評価や評定に示しきれない感性や思いやりなどについても、個人内評価として生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価する。